

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	エイルマンション上大川前通		
建設地	中央区 上大川前通5丁目73番3 他5筆		
用途地域	商業地域、防火地域		
建物用途	集合住宅		
竣工年	2013年2月 予定		
敷地面積	1,065.89 m ²		
建築面積	605.80 m ²		
延床面積	7,026.39 m ²		
階数	地上15F		
構造	RC造		
評価の段階	実施設計段階評価		
評価の実施日	2011年7月6日		

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43}{31} = 1.3$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.0		バリアフリー	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.0
			更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	2.6		耐震・免震	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1 3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	LR2.1.1 4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4 5.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

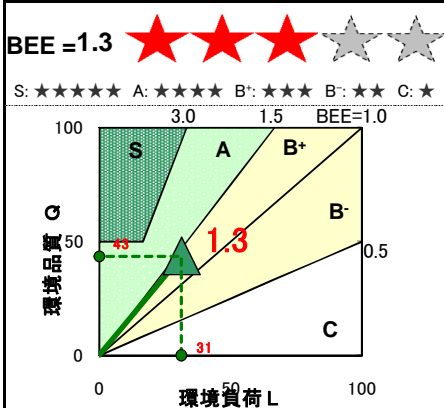
<p>1. 長寿命化への取組み 品確法(住宅性能評価)取得し、高齢者等級において「共用4」「専有3」の等級を確保する。 品確法において、維持管理対策等級について「共用2」「専有2」を取得する。</p> <p>5. 資源循環の取組み 設備器具については、出来るだけ節水タイプの物を採用する。</p>
--

CASBEE[®]新潟

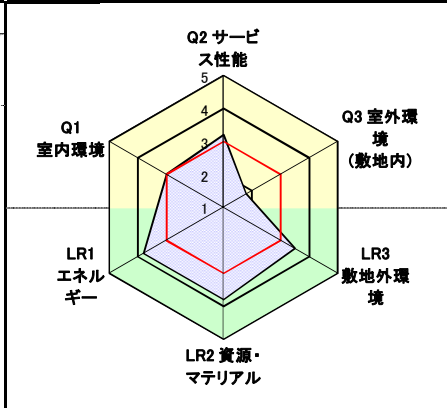
評価結果内訳

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

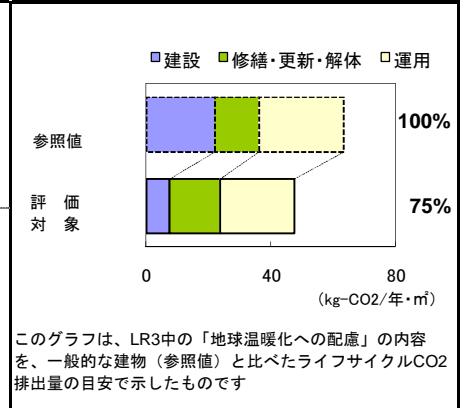
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



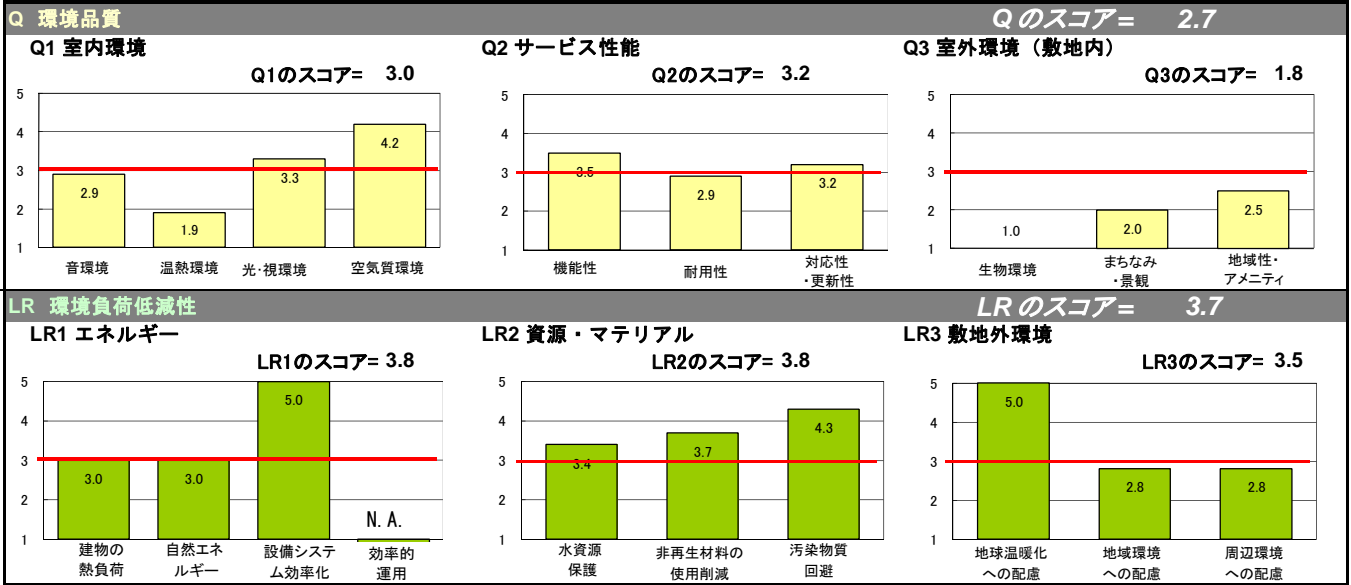
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 市内でも閑静な住宅街に計画された建物ですが、出来るだけ周辺環境に配慮するとともに、敷地東側に隣接する岡門川公園との関係に配慮した設計を目指します。また、入居者と地域住民とのコミュニケーションが出来るように考慮します。	その他 建設工事における廃棄物削減及びリサイクルを行います。
Q1 室内環境 入居者の方が日常生活を快適に過ごせるように、隣戸間等の生活音、機械設備による騒音源に対する配慮を行います。	Q2 サービス性能 建物を末長く継続的に使用出来るように設備の納まり等を工夫し、また、建物を安全に使用出来るように配慮します。
Q3 室外環境(敷地内) 入居者の方々と、近隣住民との関係を良好に保てるように意識し配慮します。	LR3 敷地外環境 建物計画において、敷地外に与える影響を検討し、法を順守し極力周辺環境に影響の出ないよう配慮します。
LR1 エネルギー 設備等において、高効率設備等を採用検討し、環境負荷低減を目指します。	LR2 資源・マテリアル 工事における"リサイクル品""量産品"の多様、節水器具等の採用を積極的に検討します。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される